

日本株投資戦略7月号

- 第1四半期の決算時期が到来 -

令和3年7月1日

アイザワ証券 市場情報部

2021年7月1日発行／審査番号：210701-B1

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa

- ・ 6月の株式市場
- ・ 7月の主なイベント
- ・ 6月の主要指数の月間騰落率
- ・ 日経平均と投資主体別売買高
- ・ 日経平均予想PERとドル円相場
- ・ 今月のストラテジー
- ・ 今月の銘柄
 - ・ デンソー
 - ・ アドバンテスト
 - ・ キヤノン
 - ・ エーザイ
 - ・ 日立製作所
 - ・ TOWA
 - ・ みずほフィナンシャル・グループ
 - ・ SOMPOホールディングス
 - ・ 住友不動産

マーケット情報

円、ポイント

	価格	移動平均線乖離率(%)		騰落率(%)			年初来高値	年初来安値
		25日	200日	1ヵ月	3ヵ月	1年		
日経平均	28,791	▼0.4	5.3	▼0.2	▼1.3	29.1	30,467	27,055
TOPIX	1,943	▼0.3	6.1	1.0	▼0.5	24.6	2,012	1,791
東証2部	7,675	1.2	9.9	2.9	2.3	16.4	7,730	6,590
JASDAQ	3,997	1.4	5.8	2.7	1.4	16.1	3,997	3,723
マザーズ	1,207	3.0	▼0.0	4.9	0.3	19.3	1,320	1,042

日経平均月間騰落率(上位)		円、%	
	終値(6月30日)	値上がり率	
4523/T	エーザイ	10,925	48.5
9107/T	川崎船	3,995	35.2
9101/T	郵船	5,630	24.7
9104/T	商船三井	5,340	21.5
4151/T	協和キリン	3,940	19.0
6702/T	富士通	20,800	17.0
2802/T	味の素	2,884	14.6
6366/T	千代建	441	13.1
6701/T	NEC	5,720	11.9
3382/T	7&I-HD	5,297	11.9
7261/T	マツダ	1,044	11.7
4506/T	大日住薬	2,328	11.6
6501/T	日立	6,361	10.9
5803/T	フジクラ	516	10.3
1605/T	INPEX	829	10.1
8830/T	住友不	3,970	9.1
4689/T	ZHD	556.8	8.2
4901/T	富士フィルム	8,239	8.0
5101/T	浜ゴム	2,379	7.8
2501/T	サッポロHD	2,312	7.7

日経平均月間騰落率(下位)		円、%	
	終値(6月30日)	値上がり率	
8303/T	新生銀	1,457	-14.3
6301/T	コマツ	2,761	-13.8
5541/T	大平金	1,702	-12.4
5713/T	住友鉱	4,325	-11.9
5411/T	JFEHD	1,301	-10.8
7012/T	川重	2,375	-9.8
6326/T	クボタ	2,247	-9.7
6471/T	日精工	939	-9.6
6302/T	住友重	3,060	-9.6
4061/T	デンカ	3,695	-9.0
8750/T	第一生命	2,034	-8.9
5401/T	日本製鉄	1,874	-8.8
8308/T	リソなHD	427	-8.6
3086/T	Jフロント	985	-8.5
6674/T	GSユアサ	2,835	-8.4
6753/T	シャープ	1,833	-8.3
7951/T	ヤマハ	6,030	-8.2
5707/T	東邦鉛	1,881	-7.3
1812/T	鹿島	1,407	-7.1
7911/T	凸版印	1,785	-6.9

出所: Quick、アイザワ証券作成

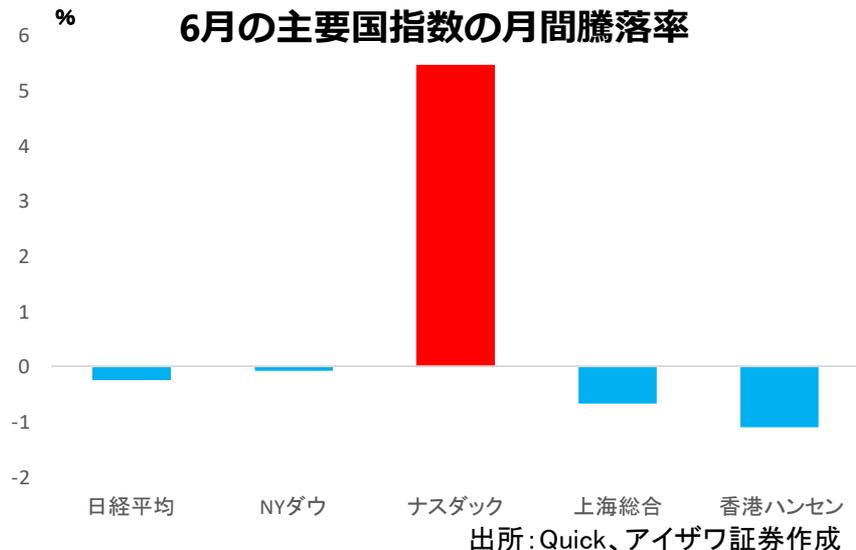
◆6月の日経平均は前月末比▼0.2%とほぼ横ばいで終えたなか、TOPIXについては1.0%の上昇で終えた。6月はトヨタ、デンソーが上場来高値を更新するなど全体が冴えないなかで大型優良銘柄の一角が物色された。日経平均の冴えない展開は、ファーストリテイリング、ソフトバンクGといった日経平均への寄与度が高い銘柄が低調に推移したことが要因で、月間ではファーストリテイリングは▼6.2%、ソフトバンクグループは▼5.8%の下落で終えた。日経平均の構成銘柄の中では、米国で新型認知症薬が承認されたエーザイが上昇率のトップ、川崎汽船、日本郵船、商船三井など船株が上昇した。

◆大型株が軟調に推移したなかで、個人の資金は中小型株に集まった。前月末比で6月は東証2部が2.9%、JASDAQが2.7%、マザーズが4.9%の上昇で終えた。

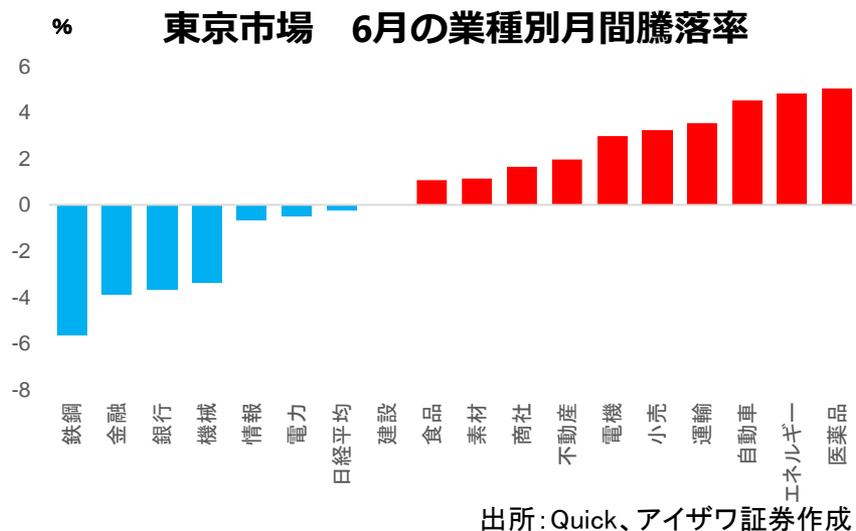
		日本	海外
1日	木	日銀短観、新車販売台数	ユーロ圏失業率、米ISM製造業景気指数
2日	金	マネタリーベース	米雇用統計、米貿易収支、米製造業受注
5日	月	景気動向指数 経常収支、景気ウォッチャー調査 マネーストック	米ISM非製造業指数
6日	火		中国消費者物価指数
7日	水		
8日	木		
9日	金		
12日	月	機械受注、工作機械受注	OECD景気先行指数
13日	火	鉱工業生産指数 日銀「展望レポート」公表	米CPI
14日	水		ユーロ圏鉱工業生産指数、米PPI
15日	木		米ニューヨーク連銀景気指数、米鉱工業生産指数
16日	金		ユーロ圏消費者物価指数、米小売売上高、中国GDP
19日	月	貿易収支、工作機械受注	ユーロ圏経常収支、米住宅着工件数
20日	火		
21日	水		米中古住宅販売、米耐久財受注
22日	木		
23日	金		
26日	月	有効求人倍率、鉱工業生産指数	米ケース・シラー住宅価格指数、米FOMC、米国内総生産(GDP)
27日	火		
28日	水		
29日	木		
30日	金		ユーロ圏消費者物価指数、ユーロ圏失業率、ユーロ圏GDP、米個人消費支出・個人所得

出所：6月25日現在、Quickよりアイザワ証券作成、予定は変更の可能性もあります

- ◆ 日銀短観、日銀展望レポート公表：国内では、1日に日銀短観、16日に日銀展望レポート、30日には有効求人倍率が公表される予定。
- ◆ 海外では米FOMCが7月27日～28日に開催予定となっている。



- ◆ ナスダックが大幅上昇: 6月の主要国の株価指数のパフォーマンスは、米国のナスダックが5%を超える上昇となり、6月29日に過去最高値を更新した。ナスダックはハイテク銘柄の構成比率が高いが、日本株でもイビデン、新光電気工業、芝浦電子といったエレクトロニクス関連銘柄が買われたが、日経平均全体には波及しなかった。

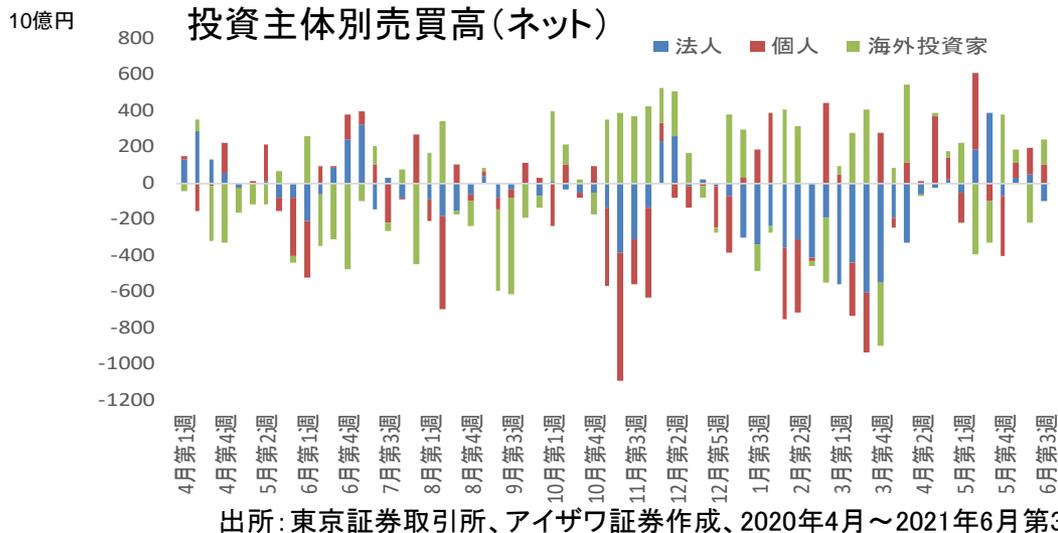


- ◆ 医薬品が業種別上昇率の上位: 6月の業種別月間騰落率では17業種中、10業種が上昇した。医薬品が上昇率のトップとなったが、医薬品銘柄では新型アルツハイマー薬が承認されたエーザイ、発表した新たな中期経営計画の内容が好感されたアステラスが買われた。一方で、鉄鋼、銀行など前月まで買われていた景気敏感株の下落率が大きかった。

日経平均と投資主体別売買高

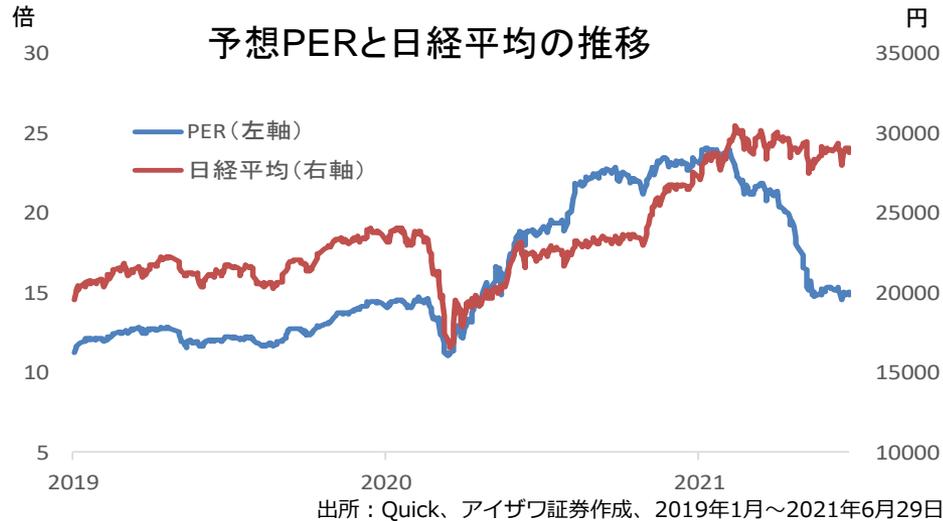


- ◆ 200日移動平均線に迫る：日経平均は昨年秋から年初まで力強い上昇トレンドを描いていたが、2月をピークに軟調な展開が4カ月近く続いている。こうしたなか、200日移動平均線との乖離率は5%程度に低下するなど、調整が進んでいる。今月下旬から3月決算企業の決算発表が本格化するが、足元で110円を超える円安となっているドル円レートなど、輸出企業を中心に株価は再評価されるタイミング入りに期待したい。

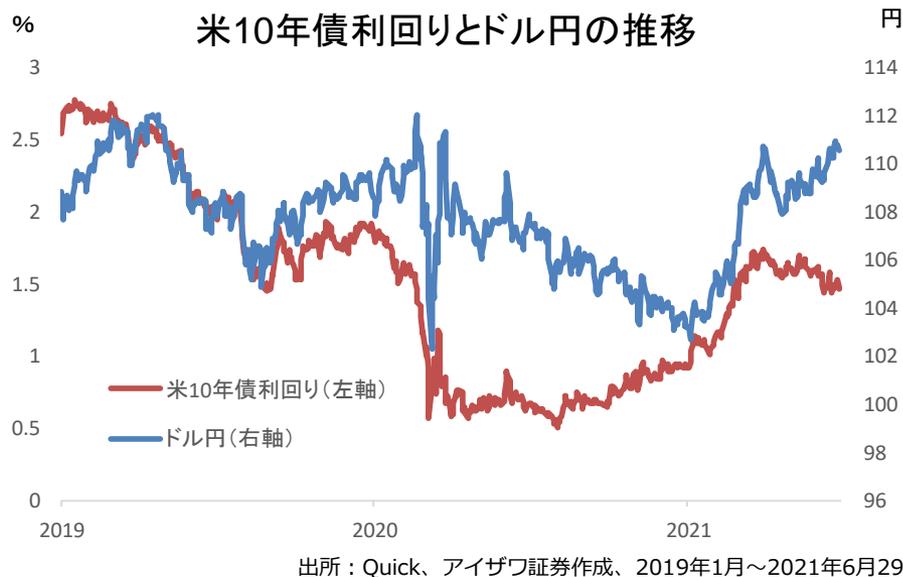


- ◆ 小動き：日経平均が軟調に推移したなか、6月の投資主体別売買動向をみると、法人、個人、海外投資家ともに方向感がないなかで小動きに終始している。中小型株が堅調に推移したなかで、個人投資家は6月に入り3週連続で買い越しであった。

日経平均のPER推移とドル円相場



- ◆ バリュエーションの見直し期待：日経平均の足元の予想PERは14倍程度にまで低下しており、予想配当利回りは1.8%である。バリュエーション的には今期の業績予想に上振れ期待が乏しく、来期の利益は低成長で推移することを織り込こんで株価が形成されているといえよう。一方で、夏以降のワクチン普及、円安気味に推移するドル円レートなど企業業績への上振れ期待が高まっているといえ、バリュエーションが見直されることに期待したい。



- ◆ 為替相場では、ドル円レートが1ドル110円を上回る円安となっている。想定為替レートを1ドル105円程度に設定している企業が多く、輸出企業を中心に円安メリットによる業績への押し上げ効果が期待できよう。足元で発表されている景気指標が強い米国ではテーパリング（量的緩和の段階的縮小）の開始時期が視野に入りつつあり、2023年とみられていたFFレートの引き上げ時期が前倒しとなる可能性が高まっている。このため、ドル円相場は円安の動きが強まるであろう。

今月のストラテジー

6月の相場→ファーストリテイリング、ソフトバンクグループが足枷

6月の相場は日経平均はほぼ前月末並み。米国市場でハイテク株が買われ、ドル円レートが円安となったことから見直し買いが入ることに期待していたが、期待倒れの月となり、これで日経平均は過去3ヵ月間に渡って小動きで終えることとなった。日経平均の低調なパフォーマンスは日経平均への寄与度が高いファーストリテイリング、ソフトバンクグループといった銘柄の低調なパフォーマンスが要因だが、ファーストリテイリングは6月に年初来安値をつけるなど低調な株価パフォーマンスであった。「しまむら」、「ニトリ」といった他のデフレ関連銘柄も年初から低調なパフォーマンスが続いていたが、6月に入り反発がみられた。アフターコロナ相場を視野に入れた時、これら銘柄は株式市場では物色の対象外が続いていたが、業績自体は堅調な推移が期待できることから株価にはリバウンド期待が高まろう。もう一つ、日経平均の足枷となっているソフトバンクグループだが、幾つかの投資先である中国IT企業に対する中国、米国の政府当局からの圧力の可能性が拭い去れず、当面の株価見通しの不透明感は晴れないといえ、あえてここで仕込む必要はないだろう。

投資戦略→ 4-6月決算への期待が高まる

日経平均のバリュエーションは予想PERが14倍程度に留まっている。このマーケットの評価に対し、4-6月の決算は自動車、半導体など製造業を中心に生産は好調で、足元のドル円レートからは輸出企業を中心に業績の押し上げ効果が期待できる。今月下旬から本格化する企業の4-6月の決算にて堅調な結果を示すことが出来るようならば、日本株のバリュエーション訂正（株価の上昇）につながる事となろう。今後の日経平均の見通しだが、相場はアップダウンを繰り返しながらも先高観は強いといった見方に変化はなく、年末に向けて高値3万3000円見通しを継続する。こう考える背景は、来期に向けて堅調な企業業績が見込めるからである。今後、相場が崩れるリスク要因としては米国のテーパリングがあろうが、米国でテーパリングの開始が発表された場合、日本株には短期的ではマイナス材料となろう。ただし、時間とともにこのマイナス材料は吸収されて、株価は上値を試す展開を想定している。日本株にとって、テーパリングはドルのバラマキが落ち着くことから円安が期待できるからである。

今月の投資アイデアとしては、基本的には好決算なグロース銘柄の押し目買いを継続。足元では自動車、半導体業界の銘柄に好業績が期待出来るとみている。

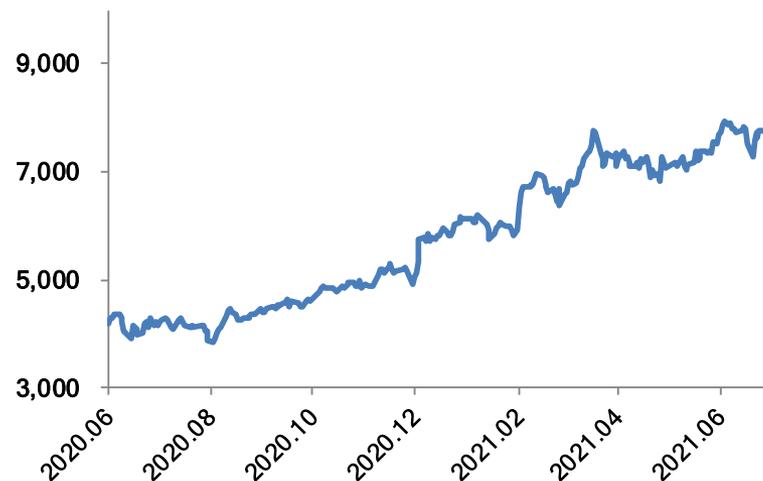
今月の注目銘柄

- ・デンソー
- ・アドバンテスト
- ・キャノン
- ・エーザイ
- ・日立製作所
- ・TOWA
- ・みずほフィナンシャル・グループ
- ・SOMPOホールディングス
- ・住友不動産

株価:(2021/06/29)	7,645円
52週高値:(2021/06/07)	7,970円
52週安値:(2020/08/03)	3,786円
予想PER	18.6倍
PBR	1.52倍
予想配当利回り	1.83%
時価総額	60,238億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/06~2021/06/29



- ◆ 2021.3期の通期決算は、売上高が前年同期比▼4.2%の4兆9367億円、営業利益が同+153.9%の1551億円であった。会社計画であった、売上高4兆7400億円、営業利益1500億円は上回った。
- ◆ 会社予想による2022.3期の業績見通しは、営業利益が同+166.3%の4130億円である。大幅な営業増益となる見通しだが、21年1-3月の3カ月間の営業利益が884億円であったことを考えると、決してアグレッシブな数字目標ではないといえよう。(横山 泰史)

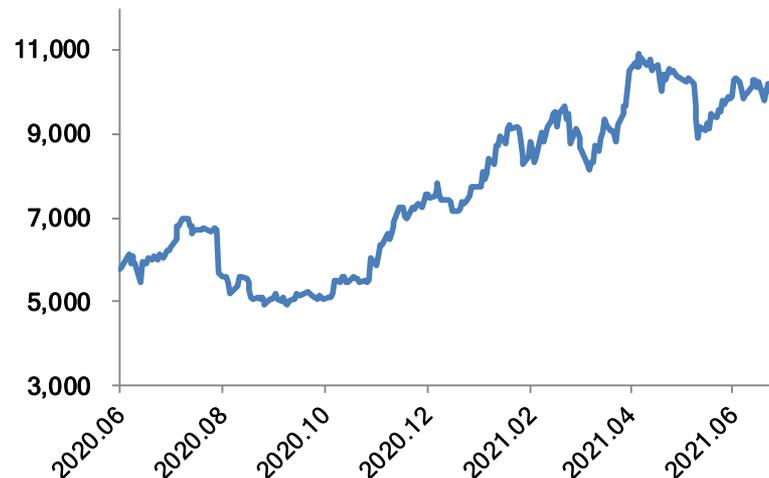
■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	51,534	▼3.9%	610	▼80.7%	896	▼74.8%	680	▼73.2%	87.8	140.0
2021/03 実績	49,367	▼4.2%	1,551	153.9%	1,937	116.2%	1,250	83.6%	161.3	140.0
2022/03 予	54,600	10.6%	4,130	166.3%	4,510	132.8%	3,170	153.5%	409.1	140.0

国際基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	10,010円
52週高値:(2021/04/07)	10,990円
52週安値:(2020/09/11)	4,814.9円
予想PER	30.7倍
PBR	7.01倍
予想配当利回り	1.17%
時価総額	19,976億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/06~2021/06/29



- ◆ 半導体の製造工程にて使用される検査装置で世界シェアが約50%（暦年ベースで過去3年平均）を誇る半導体製造装置メーカー。扱う検査装置の約6～7割がハイエンド向けで、使用される分野はコンピューターが6～7割、車載が3～4割である。
- ◆ 検査装置は半導体パッケージングの違いによって使い分けられる。半導体の複雑化が進んだことにより高性能な検査装置への需要は高まっている。（横山 泰史）

■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	2,758	▼2.3%	587	▼9.2%	585	▼11.5%	535	▼6.1%	270.1	82.0
2021/03 実績	3,127	13.4%	707	20.5%	696	18.9%	697	30.4%	353.8	118.0
2022/03 予	3,500	11.9%	850	20.2%	850	22.1%	640	▼8.3%	—	—

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり、2022.3期のEPSと配当は未公表) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	2,518.5円
52週高値:(2021/04/27)	2,742円
52週安値:(2020/10/20)	1,627円
予想PER	18.8倍
PBR	0.98倍
予想配当利回り	3.57%
時価総額	33,590億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 第1四半期（21年1-3月の3カ月）は、在宅需要によるインクジェットプリンターの販売好調と新製品であるデジカメの販売好調によって、売上高は前年同期比+7.7%の8426億円、営業利益は同+114.6%の705億円と大幅な増益を達成した。
- ◆ 2021.12期の通期見通しについて上方修正を発表。従来予想に対して、売上高が+1000億円、営業利益が+395億円であった。（横山 泰史）

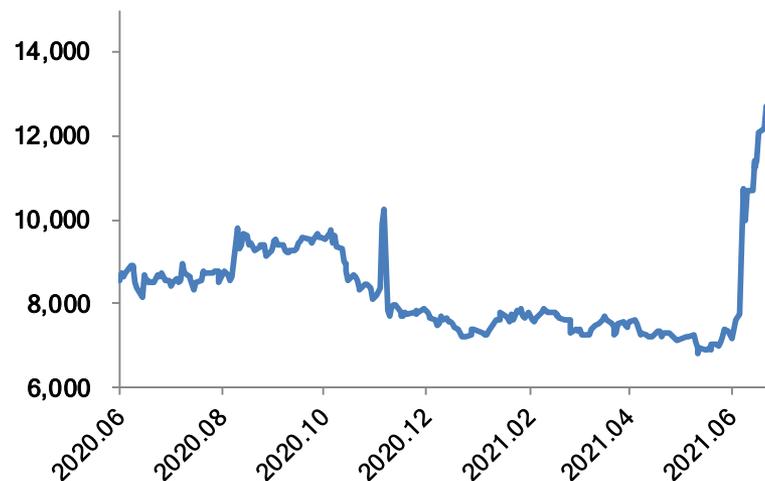
■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2019/12 実績	35,933	▼9.1%	1,744	▼49.1%	1,955	▼46.1%	1,250	▼50.5%	116.8	160.0
2020/12 実績	31,602	▼12.1%	1,105	▼36.6%	1,303	▼33.4%	833	▼33.3%	79.4	80.0
2021/12 予	35,000	10.8%	1,980	79.1%	2,110	62.0%	1,400	68.0%	133.8	90.0

米国基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	11,500円
52週高値:(2021/06/22)	12,765円
52週安値:(2021/05/13)	6,705円
予想PER	74.0倍
PBR	4.68倍
予想配当利回り	1.39%
時価総額	34,105億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所:QUICK

日足チャート(円)2020/06~2021/06/29



- バイオジェンと共同開発するアミロイドベータの減少をターゲットとしたアルツハイマー治療剤アデュカヌマブが米FDA（米国食品医薬品局）より承認。
- 同じくバイオジェンと共同開発中のアルツハイマー型認知症治療剤「レカネマブ」が米FDA（米国食品医薬品局）よりブレイクスルーセラピーに指定された。現在、フェーズ3試験が進行しており、来年9月までに臨床試験の結果取得を目標としている。（横山 泰史）

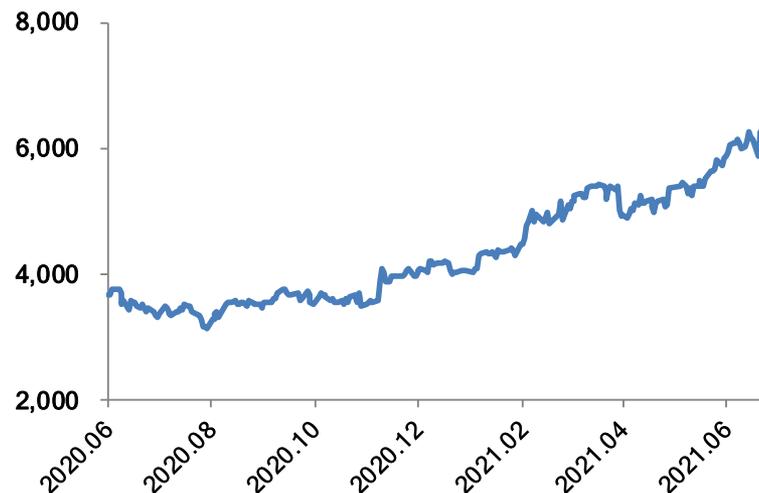
■業績推移	売上高		営業利益		税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	6,956	8.2%	1,255	45.7%	1,280	43.2%	1,217	92.1%	425.0	160.0
2021/03 実績	6,459	▼7.1%	517	▼58.8%	525	▼59.0%	421	▼65.4%	146.9	160.0
2022/03 予	6,810	5.4%	580	12.0%	585	11.3%	445	5.7%	158.0	160.0

国際会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	6,450円
52週高値:(2021/06/28)	6,525円
52週安値:(2020/07/31)	3,122円
予想PER	11.3倍
PBR	1.76倍
予想配当利回り	1.62%
時価総額	62,451億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/06~2021/06/29



- 2021.3期の決算はコロナ禍の影響によって売上高は減少したものの、純利益については事業再編利益の計上によって、過去最高となる5016億円を記録した。
- 2022.3期の会社予想では、調整後営業利益は日立Astemoの増益や売上高の回復により、前期比+49.4%としている。足元では事業ポートフォリオの入れ替えを積極的に行っているが、2022.3期は日立金属の売却、GlobalLogicの買収を予定 (横山 泰史)

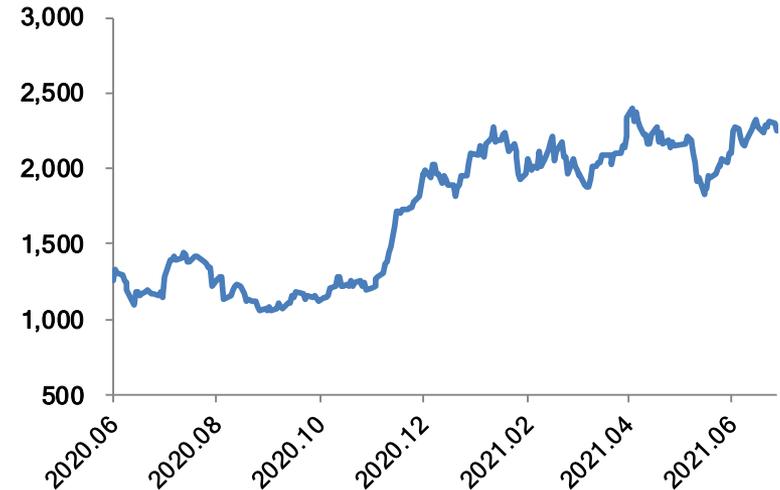
■業績推移	売上高		調整後営業利益		継続事業税前利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	87,673	▼7.5%	6,619	▼12.3%	1,803	▼65.1%	876	▼60.6%	90.7	95.0
2021/03 実績	87,291	▼0.4%	4,951	▼25.2%	8,444	368.4%	5,016	472.6%	519.2	105.0
2022/03 予	95,000	8.8%	7,400	49.4%	8,000	▼5.3%	5,500	9.6%	569.1	—

国際基準 (単位: 億円、予: 会社予想) EPS、配当1株当たり、2018年10月1日付けで5株を1株に株式併合を実施、遡及修正済) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	2,250円
52週高値:(2021/04/05)	2,439円
52週安値:(2020/09/04)	1,031円
予想PER	16.0倍
PBR	1.80倍
予想配当利回り	1.02%
時価総額	563億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/06~2021/06/29



- 半導体の製造工程にて使用されるモールドディング装置で世界シェアNo.1。米中半導体摩擦の影響によって、中国が半導体の国産化比率を高めるべく半導体生産設備への投資を積極化させていることから昨年秋以降の受注は高水準で推移している。
- 受注環境は第3四半期（20年10-12月）が140億円（前年同期65億円）、第4四半期（21年1-3月）が136億円（同84億円）と高水準が続いている。（横山 泰史）

■業績推移	売上高	営業利益	経常利益	純利益	EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	253 ▼10.7%	8 ▼13.3%	6 ▼31.1%	4 ▼58.0%	14.8	16.0
2021/03 実績	297 17.6%	36 345.6%	38 490.2%	26 622.1%	106.4	16.0
2022/03 予	380 27.9%	50 38.2%	50 30.9%	35 31.4%	139.9	23.0

日本会計基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	1,596.0円
52週高値:(2021/03/19)	1,732.5円
52週安値:(2020/10/29)	1,256円
予想PER	7.9倍
PBR	0.43倍
予想配当利回り	4.69%
時価総額	40,526億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部



出所: QUICK

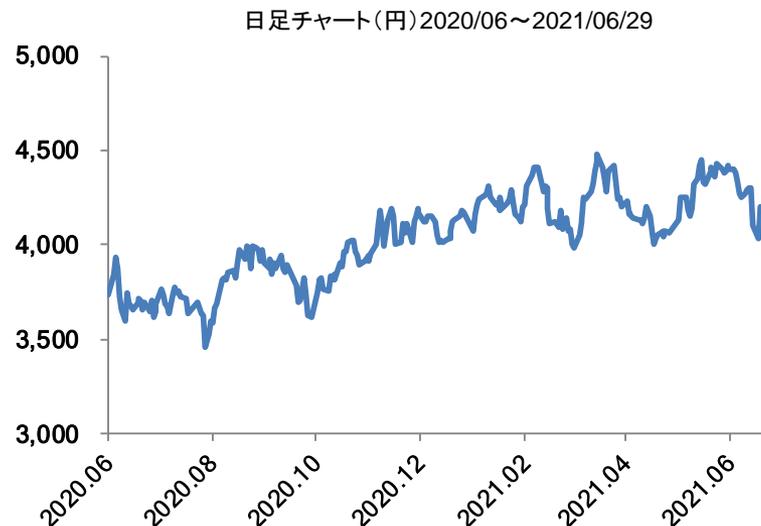
- ◆ 銀行大手（メガバンク）の一角、銀行、信託、証券などに事業展開、収益拡大策とともに構造改革を実行、人員や拠点の削減などによる効率化を推進。
- ◆ 2021年3月期の実績は、減収・経常減益ながら、特別利益を計上。2022年3月期の会社予想は、増益を想定。銀行規制上の自己資本比率は目標到達、株主還元方針を上方修正（配当性向30→40%、機動的な自己株取得を追加）。（水口 活也）

業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	39,867	1.5%	6,378	3.8%	4,485	364.5%	176.8	75.0
2021/03 実績	32,180	▼19.2%	5,363	▼15.9%	4,710	5.0%	185.7	75.0
2022/03 予	—	—%	—	—%	5,100	8.2%	201.0	75.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想) EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	4,125円
52週高値:(2021/03/19)	4,514円
52週安値:(2020/07/31)	3,454円
予想PER	11.7倍
PBR	0.72倍
予想配当利回り	5.09%
時価総額	15,399億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK



- ◆ 国内損害保険大手の一角、自動車や火災など損害保険が主力だが、生命保険や海外保険、介護にも事業展開。災害影響を収益多様化とリスク分散で吸収。
- ◆ 2021年3月期の実績は、増収・増益、新型コロナ影響は、海外でマイナス、国内損保でプラス。2022年3月期の会社予想は、平準化によって減益を想定。新中期経営計画では、資本コスト想定7%を上回るROE10%が目標。(水口 活也)

■業績推移	経常収益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	37,603	3.2%	1,924	▼3.3%	1,225	▼16.4%	334.1	150.0
2021/03 実績	38,463	2.3%	2,150	11.8%	1,424	16.3%	397.4	170.0
2022/03 予	—	—%	1,850	▼14.0%	1,250	▼12.3%	352.1	210.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

株価:(2021/06/29)	3,998円
52週高値:(2021/06/16)	4,222円
52週安値:(2020/07/10)	2,578.5円
予想PER	12.6倍
PBR	1.26倍
予想配当利回り	1.12%
時価総額	19,033億円
取引単位	100株
主たる上場取引所	東証 1部

出所: QUICK

日足チャート(円)2020/06~2021/06/29



- ◆ 総合不動産大手の一角、オフィスビルなど不動産賃貸が主力、マンションなど不動産販売、リフォームなど完成工事、不動産流通その他に事業展開。
- ◆ 2021年3月期の実績は 減収・営業減益ながら、純利益は8期連続最高益更新。2022年3月期の会社予想は増収・増益、ホテル・イベントホールなど一部で新型コロナ影響も残るが、住宅関連は回復、主力のビル賃貸は堅調を想定。 (水口 活也)

業績推移	売上高		営業利益		経常利益		純利益		EPS(円)	配当金(円)
2020/03 実績	10,135	0.1%	2,343	6.8%	2,205	8.5%	1,409	8.4%	297.5	35.0
2021/03 実績	9,174	▼9.5%	2,192	▼6.4%	2,099	▼4.8%	1,413	0.3%	298.3	40.0
2022/03 予	9,200	0.3%	2,280	4.0%	2,210	5.3%	1,500	6.1%	316.5	45.0

日本基準(単位:億円、予:会社予想 EPS、配当1株当たり) アイザワ証券作成

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：藍澤証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第6号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）



株式投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お客様にご負担いただく手数料等について

取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大1,650円

コールセンター発注 約定代金が55万円以下の場合1,650円、約定代金が55万円超3,000万円以下の場合3,300円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大1.265%（最大149,875円、2,750円に満たない場合は2,750円）

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

執筆担当者またはアイザワ証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。